

もりの仲間が

一つに

「長く続けられるよう、みんなと一緒にがんばりましょう」。

二月、芸術の森地区で誕生した「もりの仲間」の子どもを見守るネットワーク」。地区内三つの小学校を中心に、各小学校区の町内会や老人クラブなど、地域全体が一つになって、声掛けやあいさつ、買い物や犬の散歩などをしながら今まで以上に見守り運動を盛り上げていきます。

これからは、地域で不審者を発見した場合、ネットワーク事務局へ通報することにより、住民の登録先へ電子メールを送信したり、広報車で注意を呼び掛けたりして、より早く、広く情報を提供することができるようになります。

また、見守り運動には地域のお年寄りも参加。老人クラブ、石山見晴寿代会長の橋本さんは「昔は隣近所の子どもの顔も分かっていたし、何もしなくても地域のつながりがありました。今と違い、不審者の出没など考えられない時代でした」と言います。しかし、お年寄りにとっても、子どもたちは今も昔も大事な宝物。橋本さんたちは今後、登下校時刻に合わせて通学路でのパトロールを始めます。



▲みはらし見回り隊

私たちも
パトロールだワン！



◀決起集会

怖くなったら
とにがくおいて！

こうした地域ぐるみで行われている運動を、子どもたちのお母さんほどのように思っているのでしょうか。常盤小学校PTAの吉田さんと久保さんは「親だけでは守り切れない部分を地域の皆さんが協力してくれてとても安心です」と話しています。また、二人の自宅は「子ども110番の家」として、身の危険を感じた時の子どもたちの心強い味方。玄関には目印のプレートが張られています。こうした家は、常盤小学校区だけで約二百六十軒。もっとたくさん増えることで、不審者が寄り付きにくい地域になることを望んでいます。

▼吉田さんと久保さん



というあいさつから始まるのが大切だと思えます」と話しています。子ども、親、見守る大人、みんなの心が通い合ってこそ運動は続いているもの。同ネットワークでは、110番の家を回るスタンプラリーの実施や子どもたちへのメッセージカードの作成など、お互いに顔の見えるネットワークを目指しています。

この春、地域のたくさんさんの優しい目が、子どもたちを見守ります。



寄り道しないで
帰ってね。